

マシュマロ班

体験デイ

生活支援員 山中 由恵

12月13日、マシュマロ班体験デイで藤川一重さんと黒木富美子さん及び職員2名で外出しました。

最初に、佐土原町にある「ももや食堂」に行き、イタリアンのコース料理を個室で楽しんでいただきました。メイン料理であった“豚タンの赤ワイン煮込み”が運ばれてくると、お肉にお二人の目が釘付けになり、お皿の方に自ら顔を近づけてこられ、美味しそうな表情で召し上がっていました。デザートまで全てペロリと完食され、初めてのイタリアン料理を堪能していただきました。

次に宮崎科学技術館に行きました。入口付近に居る機械の人形(コスモ博士)の前に行き、博士が動作を始める開始ボタンを一重さんに押ししていただきました。ボタンを押した途端に博士が動いて喋り始めた様子に一重さんはびっくりされていましたが、富美子さんは博士の話に聞き入り「うんうん」と何度も相槌を打っておられました。その後、館内を一周回り、初めて見るものや経験されることが沢山あり随所に笑顔が見られました。今回の体験デイは初めてづくしの体験デイになったのではないかと思います。



フットマッサージャーを頂きました!

日本生命相互会社宮崎支社労働組合様よりフットマッサージャーを頂きました。利用者の方も気持ちよさそうに使われています。



りんご美味しかったよ～

今年も青森県ごしよつがる農業協同組合より甘くて美味しいりんごを頂きました。毎年美味しいりんごをありがとうございます!

木下大サーカス!!

11月30日に木下大サーカスにご招待頂きました。ピエロの楽しいショーや、天井高くでの空中ブランコにハラハラしながら、久しぶりのサーカスを満喫してきました～。また宮崎に来てくださいね!



第37回全国盲重複障害者福祉施設研究大会に参加して

生活支援副主任 日高 武敏

参加させていただいた分科会で2施設の発表がありました。どちらの施設も発表者が若い職員でしたが、様々な質問に対して、受け答えもしっかりしていて、好感の持てるものでした。発表された2名の姿を拝見して、エデンの園でも、園としての方針はもちろん、自分の意見をしっかりと持ち、周りの人々にしっかりと伝える事の出来る職員の育成が急務だと感じました。また講演会における、田ヶ谷先生の話の中で「熱心さ」を持ち続けることの大切さを学びました。言葉では簡単に言えますが、「熱心さ」を持ち続けるには「目標」が必要です。「目標」を常に意識し、目標に少しでも近づけるように、試行錯誤しながら、支援を継続していきたいと思います。また、来年度の全国大会は宮崎県で開催されます。

皆様のお越しをお待ちしております。

オリーブ班の望年会

生活支援員 日高 薫

平成28年12月27日に、オリーブ班での望年会が行なわれました。体験デイと言えば、外出をすることが定番になっていますが、今回は、ゆっくりとくつろげる慣れた環境の中で園内体験デイを計画しました。午前中は食堂で『豆乳鍋』の下準備から、皆さんと一緒に going to 行っています。大量の野菜など材料を切り分ける行程を興味津々に眺められる様子が見られました。昼食前に音楽室へ移動し、職員による出し物『桃太郎の劇』を見ていただきました。庵崎職員扮する桃太郎と谷口職員扮する鬼を退治するため利用者さんにキジ役・猿役・犬役をお願いし、鬼が降参するまでと利用者さんにボールを渡すと「えーい！ やっつけるよ！ ボール投げるよー！」と言われ、日頃のストレス解消に目をキラキラさせながらボール投げを楽しまれました。とても盛り上がり笑い声も聞こえ嬉しそうな笑顔も沢山見られました。宴会では、ノンアルコールのビールと梅酒をコップに注ぎ「今年一年、お疲れ様でしたー！」と乾杯し、美味しそうに飲み干されていました。昼食は、『仕出し弁当・刺身の盛り合せ・豆乳鍋』をゆっくりと食事していただいています。普段は小食な方ばかりなのですが、豆乳鍋が美味しくておかわりする方もおられました。午後からは、食堂に戻り『ケーキ作り(さつま芋&小豆&きな粉生クリームホイップ)』を行い「お腹いっぱい、美味しかったー。有難うございました。」とお腹をさすりながら言われ、色々な美味しい物を沢山頂いて満足そうにされていました。

オリーブ班の利用者の方々には、望年会を通して、この一年を振り返り、普段とは違う雰囲気を一回味わっていただき、楽しい思い出作りとなりました。



笑顔あふれる青い鳥

生活支援員 町田 紀恵

グループホーム青い鳥が開所して2か月が過ぎました。利用者の皆さんも新しい生活にも慣れてこられた様子です。青い鳥の朝は甲斐さんの「おはよう！」の元気なあいさつで始まります。その後はそれぞれのペースで起きてこられます。青い鳥で生活するようになり、皆さんの表情がさらに明るくなり変化も見られています。声を出して笑うようになり、声を出すようになったり、自分の気持ちを表現するようになったり、夜ゆっくり休まれるようになったりとうれしい変化がありました。

7名の利用者がグループホームに移動することになり、グループホーム開所前、ホーム名を皆で考えました。はじめはなかなか名称が出てきませんでしたが、「自分の好きな物や歌でもいいですよ。」とアドバイスをすると「ぼくは赤い花が好きです。」と答えられ、「それなら『僕は青い鳥』と候補名があがりました。地名の森永と西米良の4つの中から「青い鳥」に決めました。

童話「青い鳥」はチルチル・ミチルの兄弟が、幸せの象徴「青い鳥」を過去や未来の世界に探しに行きますが、「青い鳥」は身近なところにいたというお話です。グループホームでの生活が利用者にとって身近な幸せであるように、笑顔あふれるようにスタッフ一同協力しながら支援していきたいと思っています。



新たな一歩

麦わらぼうし 寺田 法子

平成28年11月1日、放課後等デイサービス麦わらぼうしが無事に開所しました。開所までの準備期間は、「子どもがいたらどうなるかな？」「こんなことは必要かな？」等と想像を膨らませ、わくわくしたり不安になったりしながらまだ見ぬ子ども達に想いを馳せる日々でした。初日は、2名の子どものを迎えて開所し、12月現在で5名の児童が利用しています。

子ども達には、日常動作においていくつか伝えていることがあります。例えば、挨拶をする・自分で使ったものを片付けるなどですが、意外に大人よりも子どもの方が出来ていることがあります。その時は、自分の姿に「ハッ」とさせられます。私たちは、人生経験を年齢で計ることがありますが、10歳に満たない子どもであっても、学びや気づきを与えてくれます。子どもの良いところに気付くのは大人次第で、当然ととるかたらないかによると考えます。子どもと素直に向き合い、良いところを見つけながら、私たちも子ども達と一緒に一歩一歩前に進んでいきたいと思ひます。

ふれあいだより

「ふれあいの“地域貢献”を考える～PART II」

ふれあい 生活支援員 日高 信二郎

福祉施設の地域貢献には様々なものが考えられます。施設資源の開放(地域のサークル活動の場を提供)、地域住民との交流活動(コンサート等)、地域住民を対象とした福祉セミナー、災害等緊急時の受け入れ等々…。近い将来、“地域貢献”の一環として、現在行っている音楽活動を活かしたバンド演奏付きの古民家レストランやカフェが地域にできることを夢見ています。

また、ミッション系施設である当園の大きな行事として、“クリスマス”を通して、地域の方々との交流が図られてきました。クリスマスはイエス・キリスト(救い主)の誕生を祝う行事で、『創造主なる神さまへの不従順(聖書では罪)によってもたらされた暗闇の人生から、キリストを自分の救い主と信じる信仰によって得られる魂の救い(罪の赦し)と希望の光(心の平安)が与えられる』という聖書の約束の御言葉(グッドニュース)が、2000年もの間ずっと語り継がれて来ました。

この世界と全ての生き物(私たち人間)を創造された愛の神さまからのメッセージ(聖書の御言葉)は、日本の文化やしきたりと相容れないところもありますが、地域の方々へ天からの溢れるばかりの“祝福”が注がれる為に、イエスさまの教え(聖書)を土台とするエデンの園は福音(グッドニュース)を伝え続けていく使命があり、ふれあいの“地域貢献”の大きな役割であると思います。



エデンの園ふれあい



クリスマス会の様子

主曜学校メッセージ

印 慶子牧師(宮崎柳丸キリスト教会) 原田彰久牧師(宮崎清水町教会)
浅野 兼牧師(霧島キリスト教会) 海老原直宏牧師(宮崎北聖書キリスト教会)
金 垣基牧師(宮崎めぐみ聖書教会)

寄贈品寄付金ありがとうございます。

(敬称を略させていただきます H28.10月～12月)

カサグランデ、田原千恵子、甲斐 龍、片地フサ子、坂本啓二、赤江社会福祉協議会、日本生命労働組合県支部
宮崎マルトプロパン、佐藤律子、宮崎ブラザーズ、宮王丸郵便局、伊藤加代、押川和雄、福田京子
西小林区社会福祉協議会、美郷町社会福祉協議会、横山時義、都城点訳・音訳友の会、ダイキ子、木下大サーカス
JAごしょつがる農業協同組合、渡辺稔商店、吉田喜一、高山幸哉、宮崎教会、宮崎中部教会、エデンの園家族会
宮崎教会女性会、宮崎清水町教会、宮崎清水町教会有志、竹井義信、岩元巖、湊玲子、坂元美巴子、川越勝昭
宮崎聖三一教会、匿名、日本生命相互会社宮崎支社労働組合



ボランティア

落合理恵子、片地フサ子、佐藤カズ子、竹井静子、甲斐節子、三名保育園(28名)、
ミケの会とその仲間たち(6名)、野中睦久・イジョンミ他2名



2017年が幕を開け、「あんな事やりたい」「こんな事やってみたい」と思う日々です。利用者の方が楽しく生活が送れるよう、私は、常に「笑顔」で「楽しい行事を企画」していきたいと思っています。

生活支援員 上原 卓也

■発行日 平成29年1月21日 ■発行 社会福祉法人エデンの園 ■発行者 エデンの園施設長 廣瀬 恵
〒880-1114 宮崎県東諸県郡国富町三名2621-5 TEL 0985-75-4936 FAX 0985-75-1160
http://miyazakieden/ec-net.jp/ E-mail miyazaki-eden@sirius.ocn.ne.jp